

# 三遊亭らん丈 後援会会報

## 『いよいよ始まる司法制度改革』 三遊亭らん丈

ぼくは一九七七年から八一年、二〇〇〇年から二〇〇二年と都合、六年間にわたって大学に学び、神学士と学士（経済学）の学位を得たのです。たかが学士風情で、ここに記すのは憚られたのですが、あえて記したのは、学士の称号が変わったのを知っていただきたかったからなのです。キリスト教学科を卒業したので神学士、経済学科を卒業したので学士（経済学）という違いです。

日本は、明治時代に西洋から大学制度を導入してからずっと、大学学部を卒業したものは、学士という学位を授与してきましたが、平成の大学改革の第一弾として、一九九一年に大学設置基準が大幅に緩和されたのに伴い、学士号はすべ

て学士とのみ記し、その下に括弧でその専攻分野を記すようになったのです。

こうして、法学部出身者に法学士、医学部出身者に医学士という言い方は、過去のものとなったのです。

これにはある必然が働いていたのです。九一年の大綱化によって、大学設置基準が大幅に緩和された結果、雨後のたけこのように、既存の概念にとらないまったく新しいコンセプトで学部が開設されるようになりました。

たとえば、ぼくの母校立教を例に取れば、一九九八年にコミュニケーション福祉学部が開設されました。同学部を卒業した場合は、旧来の学士号ならば、コミュニケーション福祉学士といわなければなりませんし、

国士舘大学は21世紀アジア学部を開設しました。北海道浅井学園大学の生涯学習システム学部となると、その長い名称から、履歴書への記載が大変でしょうね。そこへいくと昔の学士は、短くて分かりやすかった。たいていは法学士のように、三文字。長くても政治経済学士の六文字ぐらいのものでしょうか。

十二世紀にイタリアのボローニャに設立されたヨーロッパ初の大学では、法学教育が目的とされていましたし、それ以外では、神学のパリ大学、医学のサレルノ大学が当時の学問の殿堂として君臨していました。それが今でも続いており、ヨーロッパでは神学、医学、法学以外の学問は、基本的にすべて「Department of Arts and Sciences」という学部に含まれます。博士号もその伝で法学、医学、神学以外はすべて「Ph.D. = Doctor

2003年10月5日発行  
三遊亭らん丈後援会  
第20号 頒価100円 〒194-0013  
東京都町田市原町田4-10-19-101  
【URL】<http://www.ranjo.jp/>  
E-mail:machida@ranjo.jp  
TEL 042(732)2004

of Philosophy」哲学博士となります。ただし、これが米国となると様相がガラッと変わりまして、ラジオ・テレビジョン学部だの、犯罪学部、レクリエーション学部等日本では、決してお目にかかれぬ学部が目白押しです。

ご存じのように、日本では数ある学部のうち法学部の人気はひととき高いものとなっております。東大では、なごらく文といえは法学部を指しますし、司法試験はもちろんのこと、キャリアを養成する国家公務員採用 種試験でも、合格者は法学部生が圧倒的な多数を占めています。

また、来年度から開設されるロースクール（法科大学院）での学修期間を二年で終えることができる法学既習者となるために、いままた法学部に脚光が当たっています。

さて、今回の司法制度改革のひとつの目玉が、司法試験改革です。そもそもロースクールはなんのために作るのでしょうか。法曹人口を増やすという目的をかなえるためです。先進諸国のうち日本の法曹人口はきわめて少ないために、様々な弊害が指摘されています。そのひ

とつが、裁判に多くの時間が取られてしまふことですし、また、数が少なければ、どんな分野でも競争原理が働かないので、権利の既得者に過剰な恩典を付与することになります。

では、どれほど法曹人口が少ないのか。一九九七年において、日本では約二十万人を数えるのみですが、米国では九十四万一千人。先進諸国中少ないと言われる仏国でも三万六千人もいます。ちなみに、米国では、法曹一人当たりの国民の数が二九〇人ですが、日本では六千三百人です。これでは、あまりに較差があります。これでは、あまりに較差があります。ざんと思いませんか。

ところが、現行の司法試験のもとで合格者数のみを増やすだけでは、法曹界の質の低下は避けられません。それだけでなく、一発勝負の試験対策に秀でたものが合格しやすく、マニュアル指向の法律家を輩出しているとの批判が絶えなかつたのですから。

そこで、司法制度改革審議会は、質を確保しながら大幅に司法試験合格者を増やせる、法科大学院構想を打ち出したのです。

ただし、ロースクールの問題は、質の高

い教育を確保するために、教員一人当たりの学生数を抑制した（専任教員ひとり当たりの学生数は十五人）結果、授業料が高額になったことです。国立で七十八万円程度。私立の多くは百五十―二百万円。つまり、授業料だけでも年間二百万円かかる大学院もあるのです。そこに二―三年、学部とあわせれば六―七年通うとなると、相当な出費です。それが負担できるのは、限られた階層出身者に限定されてしまふのではないのでしょうか。

司法制度改革のもうひとつの目玉。刑事裁判に市民が参加する「裁判員制度」への法案作成も、いよいよ佳境を迎えており、来年度の成立が見込まれています。ちなみにG8のうち国民参加の裁判制度がないのは、日本のみです。しかし、導入に対する反論は少なからずあります。裁判は専門家に任せられた方がよりよい判決が下せるのではないかというもの。あるいは、日本人は農耕民なので、どうしても周りと一体感を優先するあまり、いまだ自己が確立されておらず、付和雷同するところがあり、インシアチヴをとる者の意見になびきやすい等々。

けれど、日本の裁判は自白偏重主義で

すし、それを助長しているのが、供述調書を読む現行の裁判形態です。それを、法廷で被告人や証人の話を直接聞く裁判に改めるためにも、裁判員制度の導入は、欠かせないものだとぼくは思っています。

以上、簡単に司法制度改革について触れましたが、日本のベスト&ブライテストが学ぶ法学部を卒業した方々による司法制度は、様々な面で制度疲労を抱えている日本の、変えなくてはならない制度の一つであることは、だれしもが認めて

いることなのではないでしょうか。

それゆえにこのたび、日本弁護士連合会を支える最大単位会である東京弁護士会が募集したモニターに応募し、選ばされたので、モニターの一員として活動し、その関係でお知り合いになった弁護士の方々をゲストにお迎えしたのです。

弁護士という、日本にあつて決して身近な存在とは言いかねる方々の、その実態を知っていただくためにも、是非とものご来場をお待ちしています。

## 『いまや低学歴社会、日本』 三遊亭らん丈

翌年に大学受験を控えた高校生は、いったいどれほど家庭で学習時間をとっているのか、その調査結果が、さる九月二十一日まで東京で開かれた、日本教育社会学会で報告されました。調査したのは、お茶の水女子大学の耳塚寛明教授らのグループです。

調査対象としたのは、日本は北陸の公立十二校、シンガポールは七校でそれぞれ約千三百人、英国は南部の五校の約四百五十人。日本の場合、調査地域を北陸に限定していますが、北陸はご存知の

通り、日本で最も住宅環境の優れた地域ですから、狭隘な日本特有の住宅環境を、その調査結果の理由付けにするわけにはいかないようにしています。

その結果は、三パーセントもの割合で学習時間ゼロの高校生がいる日本、十パーセントのシンガポール、五パーセントしかない英国の順となっています。つまり、国内では最も住宅環境がよいとされる北陸地方に住んでいる高校三年生にして、三人に一人は家庭では、まったく勉強していません。

さる九月二十二日、小泉連立第二次改造内閣が発足しました。そこで、小泉首相以下十八人の閣僚が誕生または留任したのですが、改造内閣において、小泉首相は構造改革路線の堅持を強調する布陣を敷いたといえます。

それならば、構造改革路線は既定のもので、自民党人事はともかくとして、なにも内閣は改造しなくともよく、プリミティブに考えれば閣僚は全員留任させればよかったです。まして、政治日程として衆院の十月十日解散、十一月九日総選挙というアジェンダが、すでに首相の視野に入っていたのですから。

改造された内閣の顔ぶれを仔細にみると、大学院を修了した方がわずか二人しかいません。尤も、日本の国会議員に占める大学院修了生の割合からすれば、とくに驚くには当たらないのかもしれませんが、世界的に見ればある意味で稀少な内閣です。

各国の、閣僚に占める大学院修了生の割合がどれほどになるか、OECDを調べてもそのデータがないので、正確なことはわかりかねますが、十一パーセントというのは、例のない低さではないで

しょうか。

ぼくは、すべての政治家がMBAホルダーになるべきだという極論をここでいうつもりは毛頭ありませんが、この閣僚で果たしてどれほど官僚を使いこなすことができるのか、それを危惧するのです。

たしかに今までの自民党政権では、政策は役人が作ってくれるのですから、議員は選挙活動にのみ専心し、代議士の場合には六回も当選を重ねれば、派閥順送り

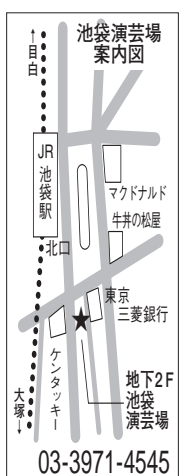
人事のおかげで、刑事被告人でもない限り誰でも大臣の椅子に座れたのですが、さすがに、小泉変人首相による組閣では、当選回数順による派閥均衡内閣は組閣せず、当選回数は入閣の必要条件ではなくなったようです。その代わりに浮上した入閣の絶対条件は何かと考えると、それはほくには分かりかねます。ただ、沖繩・北方、科学技術担当相として、茂木敏充代議士は当選三回にして今回初入閣を果たしたのは、大学院を修了しているというのが、その理由とはいえないのかも知れませんが、ある種の符合を見る思いがするのです。

大学の学部の特強だけで事足りたと思いい、大学院に進学した閣僚が、一割にと

どまる内閣というのは、世界的にみて極めて例外的に、低学歴なメンバーによって構成されているという、その事実をぼくは小稿で指摘したのですが、本稿のはじめに挙げたデータが示すように、なにも日本人の特強嫌いは、政治家に限らず、大学受験生にまで広がったようですから、むべなるかなと納得するしかないのかもしれない。

『どうしまシヨウ』の案内  
十月三十日(木)午後六時半開演 次々回04年2月28日  
池袋演芸場 (全園参照)にて前売:千八百円

本文の『いよいよ始まる司法制度改革』に記したように、らん丈は今年度の「東京弁護士会モニター」に選ばれ、またちようど、日本は司法改革の真つ最中なので、このような会を企画しました。なかでも「裁判員制度」の導入は画期的なものです。日本は昭和十八年まで陪審制を実施していたのですが、それ以来となる市民参加の「裁判員制度」です。憲法が定めた国民主権が司法にも広がる、その意味からも注目しています。



【らん丈町田市内で引越す=新住所は表題下、電話番号変わらず】

「三遊亭らん丈」後援会入会要項

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。

年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う『どうしまシヨウ』の入場券(二千円相当)を年間で二枚(四千円相当)差し上げます。

◎入会金二千円+年会費三年分一万二千円↓一万八〇〇円、合計二、八〇〇円

年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費二年分八千円↓七、六〇〇円、合計九、六〇〇円

年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費一年分四千円、合計六、〇〇〇円

会員証と後援会会報のみ御送ります。

※振込先口座※  
郵便振替口座00100011730458

加入者名・三遊亭らん丈後援会  
《東京三菱銀行・町田支店》

普通預金・1897690 三遊亭らん丈  
《みずほ銀行・町田支店》

普通預金・8046459 三遊亭らん丈  
《三井住友銀行・町田支店》

貯蓄預金・7264788 三遊亭らん丈  
《UFJ銀行・町田支店》

貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈  
《りそな銀行・町田支店》

普通預金・1093822 三遊亭らん丈  
《イーバンク銀行》http://www.ebank.co.jp/  
支店番号209・口座番号1393592